

那覇市総合計画審議会 第3回総括部会

日時： 平成29年5月29日（月） 18:00～20:00 場所：那覇市役所 602会議室

【出席者】審議員： 仲地博会長、佐藤学副会長、山代寛委員、山城真紀子委員、下地
芳郎委員、堤純一郎委員

事務局： 渡口部長、仲本副部長、稲福副参事、玉那覇主査、富川

【次第】

（1）議題

- ①基本構想（総括部会案）について
- ②第5次那覇市総合計画基本構想答申（案）について

（2）事務連絡

【資料】

- 議題資料1 基本構想（総括部会案）
- 議題資料2 第5次那覇市総合計画「基本構想」について（答申）（案）
- 参考資料1 第2回総括部会の振返り
- 参考資料2 総括部会報告

事務局： ハイサイ。委員の皆様におかれましては、ご多忙のなか、第5次総合計画審議会 第3回総括部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

はじめに、本日準備いたしました資料の確認をさせていただきます。(資料を示して確認する)
以上、お手元に揃っておりますでしょうか。

審議に先立ち、本日の会議開催の成立について確認いたします。総括部会6名の委員のうち、本日の出席委員は現在5名で、委員の過半数に達しておりますので、本審議会規則第6条第2項の規定により会の開催が可能となりましたことを確認いたします。なお、堤委員におかれましては少々遅れてのご参加という連絡を承っておりますので、6名全員が揃うこととなるかと存じます。

また、本会議につきまして、前回、原則公開するものとして確認いたしました。審議内容等について、委員又は事務局からの非公開の申し出がないときは、公開を原則として進めさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員： はい。(一同了承)

事務局： また、本日は傍聴の方がいらっしゃることを報告いたします。それでは、これより議事進行を仲地会長へお願いしたいと思います。仲地会長、ユタシクウニゲイサビラ。

(1) 議題

会長： 本日はお忙しい中、議員さんも傍聴に来ていただき嬉しい限りです。それでは、本日の議案は

議題1 基本構想（総括部会案）について

議題2 第5次那覇市総合計画基本構想答申（案）について

の二件となります。

議題の審議に入ります前に、前回の「第2回総括部会の振返り」を、その上で本日の議題に入りたいと思います。事務局から説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局： （参考資料1「第2回総括部会の振返り」を用いて説明する。）

会長： ただいま、前回の説明をいただきましたけれども、確認不足等ございますでしょうか。（意見が出ないのを確認して、）これは、次議題である基本構想答申案の中身を見ながら確認した方がいいかもしれませんね。

副会長： はい、そうですね。

会長： よろしいでしょうか。

委員一同： はい。（一同了承）

会長： それでは、振返りにつきましては、基本構想答申について審議を進めていく過程で、振り返りのところも、こうじゃなかったというのが出てきたら、そのとき修正をしたいと思います。

議題1 基本構想（総括部会案）について

会長： それでは、議題1の基本構想（総括部会案）について、審議を進めて参ります。これまでの総括部会の審議内容を反映させた基本構想（総括部会案）となっております。当部会で2回に分けて審議したところが、事務局できちんと反映されているかどうか。事務局、説明をお願いします。

事務局： （議題資料1「基本構想（総括部会案）」を読み上げながら説明する。）

会長： 全体にわたって修正がありました。ひとつずつ確認したいと思います。「1 まちづくりの将来像」では、2ページのところで微修正がありました。ここはよろしいでしょうか？

（委員から意見が出ないことを確認して）

「2 まちづくりの姿勢」について、ご検討をお願いします。

副会長： よろしいでしょうか。（5）共鳴の絆のところで、最初の諮問案の次の案で出てきていたのかな、ここで言われていたのが市の外と中の両方の経験から学んで、というようなことがあったと思うんですよ。柔軟な発想を、という話は出ていましたが、「成功体験を積み重ねながら」という表現になると、「成功例から学ぶ」というのが入らなくなっちゃったかなと思うんですね。抽象的な表現になっているように思います。「共鳴の絆」という言葉自体が少し抽象的なので、どういうことかなというのをもう少し分かりやすくというのが前回の議論だったかと思うのですが、それはこの「柔軟な発想による成功体験を積み重ねながら」で代表させたというお考えですか？ 「成功体験を積み重ね」は、自分の成功体験を積み重ねる、と普通は読んじゃうと思うんですよ。ここは、他のところ（自治体など）の成功例も学びながらというのがあったと思うんですけど、その意味はなくなっちゃうかと思うんですがそれはそれでよろしいですかね？

会長： 確かに、前回の議論ではよその成功体験、そのときは成功体験という言葉はあったのかな？ 成功体験を学びながら、というふうな話がありましたが、ここはどうでしょうか。「互いに学び、教え合い、気付きを共有するとともに、柔軟な発想による成功体験を学びながら」はどうでしょうか。

「共鳴」というところは、「熱き想いを響かせます」ということで「共鳴」との整合性を図ったということで結構だと思いますが、ここ何か文章、佐藤委員？

副会長： 「柔軟な発想により」を文頭に持ってきちゃって、「互いに学び、教え合い、気付きを共有するとともに、他の成功体験からも学びながら、まちづくりに寄せる人々の熱き想いを響かせます」にすると、前回出てきた話になるのかなと思います。「学ぶ」ということがやはり重要だと私は思ったんです。他のところから、あるいは市内での何かの活動がうまくいったことから学

ぶという、学ぶということ自体が共振・共鳴の始まりだというような意味合いだと思ったので、それを入れたらいいんじゃないかと。確かに、議事録を確認したら「柔軟な発想で」ということを加えるというのがあったので、それは全然良いと思うのですが、ちょっとそのところを、要するに他から学ぶ、あるいは自分たちの中での成功体験から学ぶというのを具体的に書いたほうがいいんじゃないかな、と思いました。

会長： ここはその趣旨で修正をしたいと思います。これも文章の修正は事務局と部会長にお任せいただけませんか。

副会長： 「好事例を学び」という文言は、資料右の諮問案で出ていたのですね。

事務局： 会長、事務局より補足よろしいですか。

（会長の許可を得て）私どもで考えましたのは、「好事例を学び」の「学び」を生かしまして、修正案の冒頭に「互いに学び」と表現しております。ただ、今佐藤委員がおっしゃったように「他の自治体の好事例」という目的語的な部分が割愛されてございまして、「学び」というニュアンスを冒頭に持ってきたところでございます。「互いに学び、気付く事で成功体験を重ねる」ということが重要ではないかという思いもございまして、学んだ結果プラスに作用した、このプラスの結果をどんどん積み上げていきたいというのを「成功体験」という言葉で表現してございます。「成功体験」という言葉が適当でないということであれば、この部分は下げていくということもあろうかと思えます。

副会長： 「互いに学び」という言葉が非常に抽象的で、誰がどういうふうに互いに何を選ぶのか、ということの意味が修正案ではちょっと伝わらないので。こういうことはまちづくりでは大事な話で、余所でやっていること、あるいは同じ市内でもどこかでやっていることが全部知られているわけではないと、それを学んでいくことで得られることがいっぱいあってという話だと思うんです。そのところをもう少し具体的に書いたほうが良いということでございます。

事務局： 承知しました。「成功体験」についてはいかがですか？

会長： 今の説明でかなり納得しましたが、どうですか。

副会長： そうですね、「成功体験を積み重ね」る手前で色々学んで、という意味合いだと良いと思います。

会長： まとめますと、冒頭の「互いに学び」の前に、もっと具体的に述べるということでよろしいでしょうか。

委員： はい。（一同了承）

会長： 具体的な文章は事務局と部会長に預けていただくということで、「2 まちづくりの姿勢」

について他にご意見ありますか？

下地委員： 「(3) 共生の絆」のところの書き出しなんですけれども、「性の多様性を認識しつつ、」から始まってそこから「世代や性別云々」と言ってしまうと、何かちょっと違和感を感じるんですよ。性の多様性を認識というのはひとつの「共生」の部分だと思うんですけど、「性の多様性を認識しつつ」が枕言葉になると、何かこちらをものすごく強調しているというような感じがするので。

会長： 「認識して」はどうですか？ 「つつ」を取って。

副会長： これは、強調すべきという意見があって入れたところでしたよね。

下地委員： はい。LGBTも含めた性の多様性というのは今の時代とても大切だとは思いますが、「認識しつつ、」というような表現になっているのが少し……。

副会長： 要するに、並びの問題ということ？

下地委員： はい。全ての人々が、というのがまず大事なところなので、「性の多様性」の置き場所を少し考えた方がいいような気がします。

山城委員： 「世代や性別」が前に来た方がいいかと思います。

副会長： 「性の多様性を認識する」としてどこか後ろに入れるということで、強調もできるし並びも収まるかな、と思います。

下地委員： 概ね2行で収めているので、ちょっと工夫しないといけないかと思いますが。

事務局： 事務局の案をご提示してよろしいでしょうか。（会長の許可を得て）性の多様性に関することと世代間につながることにについては同列ではなく区切られる話でありますので、「性の多様性を認識し、また、世代や性別云々……」とつなげるのはいかがでしょうか。

会長： いかがでしょうか。ふたつの文章を「また」でつなぐ形になります。

下地委員： 今の案と、もしくは「全ての人々が」を先に持ってくるという考えもありますよね。「全ての人々が、性の多様性を認識し、云々」という。「全ての人々が」が先に来た方が流れとしてはいいかなと思います。

会長： 「全ての人々が」を先に持ってくるとどうなるか。「全ての人々が、性の多様性を認識し、また世代や性別、国籍、障がいの有無に関わらず、生きがいを感じるとともに……」となります。

副会長： 文法的にどうなのか……。 「……生きがいを感じる、寛容の心が広がる優しい社会を築きます。」ではどうですか。

下地委員： 「共生の絆」なので「生きがいを感じるとともに」という部分は外しても本当は良いかという感じがするんですがね。ここは、色々なことにかかわらず寛容の心というふうなところで、

生きがいを感じるというところが共生とどうつなげるかというところかなと思います。

会長：　そうですね。「生きがいを感じる」というのは少し別の話のようにも思いますね。

副会長：　他のところでも生きがいについて言及しているところがあったかと思うので、ここでいう必要はないといえбайないですね。

下地委員：　「共生」だから、やはり諮問案にある「ともに創り高めあう」というところ、そこがコンセプトなんですよね。本来言わないといけないのは。

会長：　全ての人々が高めあう社会、寛容の心が広がる優しい社会を築きます。

山城委員：　私は、世代を先に持ってきて、「世代や性別、……に関わらず、また、性の多様性を認識し、全ての人々に寛容の心が広がる優しい社会を築きます」が良いと思います。

堤委員：　私も、そちらがいいと思います。

副会長：　「全ての人々に寛容の心が広がる」としてここに持ってくるというのは私もとても収まりがいいと思うんですけども、性の多様性の認識がこの場所に入るのは、やはりひょうそくが合わないような気がします。そこを少し変えれば良いかと思います。

会長：　「全ての人々に寛容の心が広がる優しい社会を築きます」という表現は良いと思いますがいかがですか。

委員一同：　はい。（一同、同意）

会長：　その表現を基本として、ここは部会長と事務局に一任をお願いします。

委員一同：　はい。（一同了承）

堤委員：　性の多様性は、やはり後ろの方がいいですよ。時代の順番としてもそうですから、「世代や性別、国籍、障がいの有無、性の多様性に関わらず」としたら、「認識」という言葉もいらなくなるので。

会長：　はい。この辺、修正いたします。あといかがでしょうか。（他に意見が出ないのを確認して）よろしいでしょうか。

（委員一同、了承。これをもって本件については承認とされた）

会長：　それでは、「3　めざすまちの姿【自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯】」について、ご審議をお願いします。

副会長：　よろしいでしょうか。細かな話なんですけど、注2の近助のところなのですが、前回議事録を確認しましたら、会長提案で「この言葉に感銘を受けた市民から提案されました」とすると決

まったというふうに私は記憶しているのですが、今回の修正案だと、「市民から提案された」という部分が抜けちゃっているんですが、これは何か理由がございますか？

事務局： よろしいですか。

（発言の許可を得て）この「近助」という言葉は、市民が作った言葉ではなくもともと（別の方が提唱していて）ある言葉で、前回の書きぶりでは市民が造語したというふうに誤解が生ずるということで議論があって、このように修正してございます。

副会長： 前回の修正では、市民による造語であると読めてしまうというのをしばらく議論したあとで、「この言葉に感銘を受けた市民から提案されました」にすると議事録にはあって、私もそのように記憶しているんですけど、要するにこの言葉を市民提案の中でキーワードとして使われていたという要素が今回の修正案では抜けちゃっている、これは何か理由はございますか？

事務局： 特に意図はございません。ただ、これは市民から提案された大きなファクターだと思っておりますので、それが現在抜けておりますので……。

副会長： 前回、だいぶ議論した中で「この言葉に感銘を受けた市民から提案されました」にするという会長のまとめがあって、私はそういうふうにした方がいいんじゃないかと思います。

会長： はい。それではですね、市民から「近助」という言葉を使いたいという市民提案があったということも含めて、「近所とは、市民提案から出てきたものであり、近所よりもより身近な……近年使われ始めた言葉です」というふうにしましょうか。市民提案から出てきたものだというところを入れましょう。

（委員一同、異議なし。）

会長： 他にありませんか？ 「WA」の説明はよろしいですか？

下地委員： 「WA」の使い方は突っ込んでしまうといろんな意見が出て、きりがないように思います。

どうしても「WA」という表記を生かすというのが本文にも注釈にも入っていて、でも言いたいのにはこれは「協働によるまちづくり」というところだと思うので、この「国際都市として調和した『WA』」という表現がそれにあっているのかどうか。前回の議論でもありましたが、ここの意味合いというのが通ずるかどうかちょっと分からない。

副会長： ローマ字で「WA」と表記することでこれを世界に広めるんだ、というのがそのまま通じるというか受け止めてもらえればいいのだけれど、違和感も持たれちゃうかなと。これをいちいち説明する話でもないということで前回議論があって、要するに調和の「和」と輪っかの「輪」の両方の意味を持たせてひらがなの「わ」と表記しているので、本当は「わ」だけでいいんだけど、このローマ字で「WA」とするというのは市民提案で出てきたんですよね？

事務局： はい。

副会長： この「NAHA」と表記して国際性を持たせる、というのと同じ並びで「WA」として国際性を表現すると、そこにやっぱり違和感を感じるというご意見も多々あったという経緯で、ではどうするかというのが前回の議論だったかと思うんですけれども。

会長： 「小さな『わ』が大きな『WA』」というこの「大きな『WA』」は国際関係まで含んだ大きなものだということで、よろしいんじゃないでしょうか。小さな「わ」と大きな「わ」をイメージする表現として、ローマ字の「WA」としたと、そういう提案だと思いますので、これは尊重しましょうよ。

aを小文字にしたのは、何か議論があったんですか？

事務局： 前回のご議論で、大文字を使うといわゆる和食の「和」となるというお話があったため…。

副会長： いえ、大文字だからというわけではないです。英単語としては、両方小文字で「wa」となるというお話で、なのでここでaを小文字にということではなくて、目立たせるということであれば、「NAHA」も全部大文字ですので、合わせて「WA」ということでいいと思います。

会長： aを小文字にすると何かことさら意味があるように思います。「WA」にしましょう。

堤委員： 「Wa」だと固有名詞のような印象があります。「WA」がいいのではないのでしょうか。

会長： 「WA」にしましょう。

委員一同： （一同賛成）

事務局： 会長、事務局から確認よろしいでしょうか。

（発言の許可を得て）注釈の1、2はいずれも市民からの提案として出されたもので、私どもとしては出来る限り尊重したいという立場でございます。ただ一方で、一般的に使うなら分かりにくいということもございますので、この注釈の中にですね、先の諮問案の中には「市民の思いが表現されています」、つまり市民提案ですというニュアンスが表記されているんですが、今回の修正案ではその要素がございました。先ほどの「近助」の注釈と同様でございますけれども、注釈1についても合わせて、市民から出てきたオリジナルの発想なのだと、なので一般的な使い方とは多少趣を異にしているということを少し表現したいと思います。

副会長： そうですね。（注釈1の）最後の「思い」というところを、「市民提案に込められた思い」などの表現にしたらいいいのではないのでしょうか。

会長： はい。そういうふうなニュアンスが伝わるように、文章を直したいと思います。これも（詳細な修正については）お預けいただけますか。

委員一同： はい。（一同了承。これをもって、本件については承認された。）

会長： それでは、「3 めざすまちの姿【保健・福祉・医療】」について、ご審議をお願いします。

山城委員： 最初に、「子ども」「子供」とふたつの表記がありますね。これが少し気になりました。

会長： そうですね。「ども」はひらがながいいでしょうか、今は？

山城委員： はい、一般的にはそのように使っているのが多いかと思います。

会長： では、「子ども」に表記の統一をお願いいたします。他にありますか？

事務局： 恐縮ではございますが、事務局から一点確認したい点がございます。

（会長の許可を得て）今の子どもの部分、「夢や希望が摘み取られることのないよう」と少しネガティブな表現を入れてございます。文脈自体は、いわゆる子どもの貧困やセーフティネットに繋がる部分でございまして、未来をしっかり守っていくという思いが込められているんですが、その趣旨から「摘み取られることがないよう」という表現にしておりますが、一方でやはりネガティブな表現でございますから、この使い方についてどうでしょうかというところをご意見賜ればと思います。

会長： 「摘み取られる」というのを、「夢や希望が叶えられる」というような、「順調に実現するように」とか、そういうふうに変えたほうがいいということですね。

副会長： セーフティネットというのを説明しているんですよね。悪いことがおきても大丈夫なように、という。

下地委員： ここは、そもそも【保健・福祉・医療】という項目の中での書きぶりなので、ここに子どもを強調するようなものが強く出て、次の【子ども・教育・文化】にもあるので、ここは本来【保健・福祉・医療】ですよね。なので、下線部の（子どもの貧困の）部分を入れてしまうと、本来の【保健・福祉・医療】の部分がぼやけてしまう気がします。

会長： 確かにそうですね。セーフティネットというのは子どもたちだけの話ではなくて、社会的弱者一般に必要なものだと思いますね。「子どもたち」という限定的な言い方を広げるということではいかがでしょうか。

下地委員： 次の項目に【子ども・教育・文化】というのがありますから、ここはやっぱり【保健・福祉・医療】のスタンスが明確になるようにした方が良くと思います。

堤委員： セーフティネットの考え方というのは、いわゆる「健康で文化的な最低限度の生活を保障する」というそのことですよね。ですから、子どもの夢や希望だけに限定されちゃうとまずいわ

けで、老人の福祉も当然入るわけですから、ちょっとここは考えないといけないかもしれませんね。

下地委員： 「誰もが」と書いていますから、そこから読み取るようにした方が。

副会長： 「健やかに育つ」というのも、やはり何か子どもに重点が置かれているなという感じがしますよね。

会長： 下線部の「子どもたちの夢や希望が摘み取られることのないよう」、ここを削除してしまっても大丈夫じゃないですか？ 「地域の中で安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、すべての人にセーフティネットを広げ、誰もが健康で……」と。

事務局： 会長、これも事務局から補足の説明を申し上げたいのですがよろしいですか？ （会長の許可を得て）これは、作成しました際にイメージしておりましたのは、いわゆる子どもの貧困の部分でございます。ですので、表現としてはやや子どもに特化したような書きぶりになってございますが、次の子ども分野の「子ども」については、少し福祉の分野から離れまして、教育でありますとか、文化、そのあたりをターゲットにしているということで、同じ「子ども」ではありますがどちらかというと生活保護等に関わる、子どもの貧困に関わる部分については今の【保健・福祉・医療】の方でカバーをしていくということで、この部分についてはまさに子どもをイメージした書きぶりになったという経緯がございました。

会長： そうしたら、「すべての人、特に子どもたちにセーフティネットを広げ」にしてはどうでしょうか。

堤委員： ちょっと気になるんですけど、たとえば子どもの貧困という話が目立っちゃって、ニュース等で取り上げられるからこういうことになっているのか、それとも現実に子どもの貧困というのが多くの福祉対象者といえますか、セーフティネットに関わる中で特に目立つのか、その辺どうなのですか。実際、セーフティネットというのはいろんな人に関わるわけで、一般の人、高齢者の方、その人たち対象者の中で特に子どもが半分以上占めるとかそういうことなんですか？

事務局： よろしいでしょうか。

（発言の許可を得て）具体的な数値は持ち合わせてございませんが、子供の貧困は全県で29%と言われていて、那覇も同等かというところで、子どものうち29%、約3割弱の方が貧困の状態にあると言われております。また一方で那覇市の生保の部分につきましても、受給者のみなさんはやはり、生活環境が必ずしも良くはございません。そういう状況におかれていますので、私どもの庁内の議論では、やはり子ども、経済の格差というのが子どもに影響を及ぼしてはいけないということで、このセーフティネットはしっかりと守っていきたいという思いがありましてこ

ういった表現となっております。

会長： 子どもの貧困、全国平均の2倍だと沖縄は言われていますよね。

下地委員： 子どもの貧困対策というのは必要だと思うのですが、これが「誰もが健康で文化的に……」と一緒に一文に入っているので、「誰もが健康で文化的に……」というのを先に言った上で子どもの貧困、あまり「貧困」という言葉は使わないほうがいいと思いますが、子どもに関する表記を次に続けるのがいいと思います。まず全体としての福祉のあり方について述べてから、次に、今まで見つかっていなかった子どもの（貧困）、というふうに入っていけばスムーズに入るかという感じがします。

副会長： 今の議論ですが、子どもの貧困というのは、大人が貧困だから子どもが貧困になるということがあって、だから「子どもの貧困」という独立した事象があるわけではないんです。という話が今の、「誰もが健康で文化的な生活基盤」をつくることで、その中で特に子どもについての……という流れにするほうがいいんじゃないでしょうか。

山城委員： （修正案の中では）「また」という言葉が使われているので。「特に」ですよね。今、佐藤委員がおっしゃられたように。

堤委員： 「特に」なのかがよく分からないんですけどね。他方では、高齢者の貧困ということもしょっちゅう聞きますし、どっちがどのくらい大事かというのは。最終的に子どもに全部影響が来るのかもしれませんが。

会長： 4行目に「子どもも、お年よりも、障がいのある人もない人も……」とあり、子どもを前に出していますから、「また」以降は子どもをなしにしてですね、「また、すべての人にセーフティネットを広げ、誰もが健康で……」というふうにしませんか。

堤委員： その方がいいような気がしますね。すっきりするかと。

会長： これでいかがでしょうか。

委員複数： 賛成です。

会長： では、そのようにいたします。【保健・健康・福祉】について、他にありませんか。

（他に意見がないことを確認し、本件については承認とされた）

会長： 「3 めざすまちの姿【子ども・教育・文化】」について、ご審議をお願いします。

下地委員： 4ページ一番下の「学校を地域のまちづくりの拠点にします」という部分については、これはそこまで言いきれぬ話なのかなというふうに。学校を地域のまちづくりの拠点として、現

実的にはまだ動いていない感じがしますが、これはどういうイメージなのですか。

事務局： 事務局からよろしいですか。（発言の許可を得て）これは、「します」というかなり強い意思を込めた表現になってございますが、これはまさに那覇市の市政としてその方向に取り組んでいるという思いがございまして、少しここは強調的な表現をさせていただいております。いま現時点で6、7つなのですが、小学校区単位でのまちづくり共同体というものをモデル的に立ち上げまして実践をしているところでございまして、これが将来的には中学校区をベースに、しっかりとした地域のネットワークが築けるようにしていきたいという大きな方針がございまして、それに沿った形で表現にさせていただきました。

会長： よろしいでしょうね。小学校を那覇市はこのようにまちづくりの拠点とするということですから、その方向でやっていくというのが基本構想になっているということです。

堤委員： ひとつ質問なのですが、この学校というのは制限なしの「学校」ということでよろしいんですか？ 要するに、小学校から大学、あるいは専門学校まで全部の学校？ あるいは那覇市立の学校なのか、そこらへんは制限かける必要はない？

事務局： ありますね。今私どもで想定しているのは、市内36の小学校がございまして、その小学校をそれぞれまちづくりの拠点としたいという思いがございまして、委員ご指摘のようにここは市立小学校というニュアンスで正確に表現します。

会長： はい。それは、そういうふうに変更をいたしましょう。

副会長： 「します」という表現が強すぎるというのが下地委員のご指摘でしたが、ここは「していきます」などというふうには、「意思表示です」というならばこれで良いんですかね？

下地委員： 気になっているのは、「保育や教育の充実のために」小学校を「地域のまちづくり」の、という意味合いに引っかかってしまっているんですね。保育や教育の拠点にするならば良いんだけれども、「地域のまちづくり」というのはすごい広い概念なので、地域まちづくり全体の拠点に小学校をするのかというと、ちょっとやっぱり意味合いが違うような……。そもそもここもやっぱり【子ども・教育・文化】というところなので。

山城委員： そうですね。

会長： 「まちづくり」というのは、目に見える道路やまちということではなくて、住んでいるまちということですね。そして、その小学校単位の協議会というのは、安全防災とか景観をどうするかとか、そういうことをやっているのですか？

事務局： 今はまだモデル事業として動いたばかりなので、大きな話はございませんが、将来的にはやはり介護や防犯、これからは地域でできることはしっかりと地域でやっていこうというその中

で、この小学校エリアの中には自治会やPTA、通り会といった様々な目的を持った団体がいるわけですが、横のつながりがなかなか希薄で、相乗効果が発揮しきれていないだろうというところで、このまちづくり協議会というカバーをしっかりとかけることでそれぞれの団体の横の連携をつなげることで、後に出てきます地域力というところをしっかりと底上げしていきたいという思いで、那覇市は今取り組んでいるところでございます。

副会長： 小学校区単位だと、住んでいる人の目が届くと。その中でひとつはたとえば地域の課題が見えてくるとかって、よくいわれる話なんですよ。それで、地域の課題を自分たちで把握してどうしていくか……、ということを知るためには、横のつながりが必要ですよ。それから、物理的に学校がそういうことに使われることによって、地域の人たちが学校を見守ることがもっとできるようになって、安全にもつながるという議論が今はやっている、そういうことですよ。

会長： これは、「拠点にします」というのは、学校がそのまちづくり協議会の核になるという意味じゃなくて、学校を単位とした区域というくらいの意味ですよ？

事務局： それと同時に、やはりその小学校区にある公共施設というのが一番大きなことです。学校となりますので、物理的にも将来的にはそこに人を常駐させるなり窓口役を置くなり、そういう構想もございますので、両方の意味を兼ねてこようかというところです。

副会長： 小学校区でやると、子育て世代、比較的若い世代の市民が参加できると。自治会等になるとどうしても年代が上がってしまいますので、というそういう効果も、地域運営学校というところにはあるようですね。

堤委員： 小学校区というのは基本的に歩いていかれる距離で、普通は1Kmくらいの距離で取るわけですから、ある意味でのコンパクトシティと言いますか、市の中でのひとつの塊として捉えるのが一番楽な単位です。そういう意味で、まちづくりの拠点というのはイメージ的にも物理的にもなりやすいということだと思んですけど、ただそこまで踏み込んで学校をそういう機能を持たせるというのは、結構大変な話ですよ。地域の人に開放するという形になってくると思うんですけど、現実に見通しはあるんですね？

事務局： 鋭意努力中でありまして。一番のネックになるのはやはり学校を預かります学校長との権限とといいますか、責任の分散というところでございますので、これは私どもも条例なりで何か工夫が出来ないのかと。つまり建物全体を学校の管理者である学校長と地域の皆さんがシェアをしないと、権限も責任も分けて、そういう方向性を見出せないのかというのが今大きな研究テーマとなっております。

副会長： その一方で、理解なしで突っ走ると子どもの安全をどうするんだ、わけのわからない人た

ちが入ってきて……ということに必ずなるので気を付けなければならない、「拠点にします」と言い切っちゃって良いのかというのはそういうこともあって。

委員複数： そうですね、そこが問題です。

下地委員： 学校の役割は教育、というのを原則として見たときに、地域に開かれた学校というのはこれまでもずっと言われてきたんですけれども、一方で安心・安全の部分から、常にこの議論の繰り返しなんです。ですからここで、学校を地域づくりの拠点にするというのは、市の方針として教育関係者も納得の上で、そういった地域に開かれた小学校にしていくなだと、保護者の理解もあって、というふうなことであれば全然問題ではないんですけれども、そのプロセスが今どのあたりなのかな、というところがちょっとよく分からなかったんです。それを今後の十年間の計画の中で明確にしていきますということの是非というのは問われないのかなと思ひまして。

会長： 政策を練って、一部はもう実行中なわけですよ。

事務局： はい。モデルではございますが、実行中です。

堤委員： 意気込みがあるのならば、大いに結構かと。

下地委員： そこがしっかり市の施策としてオーソライズされているのであれば、いいと思います。

事務局： いずれにしても、この案につきましては答申をいただいたあと、再度市の中でオーソライズしていくことになりますので、その際にここでの決意と言いますか、覚悟を確認したうえでこの表現振りは再度点検をさせていただきたいと思ひます。

会長： 基本構想は最終的には市が作りますけれども、市民として、あるいは審議会としてですね、学校を地域のまちづくりの拠点として、そういうふうなまちづくりをしてほしいという、我々が市に対する期待や要望や枠組みですよ。なのでこれはこのままでいいように思ひますが。全く市が出来ないことを押し付けようとするのは困りますけれどもそうじゃない、市もやろうとしていることですので、これはよろしいんじゃないでしょうか。

堤委員： はい。腹を括った政策があるというならば。

副会長： 逃げ道を作るわけではないですが、なんかもう少し、「具体的な施策を今後(検討します)」とかっていう書き方にすれば要求されるものもやわらかくなるけれど、さっきもあつたように決意表明であるならば、それでいいと思ひます。

会長： はい。審議会の要望ということで出して、市ができないというのであれば(表現を)修正するでしょう。

委員一同： はい。(了承)

会長： 「また、しまくとうばに身近に接するとともに」というところはよろしいですか？

（一同了承。他に意見の出ないことを確認し、本件については承認とされた。）

会長： では、「3 めざすまちの姿【産業・観光・情報】」についてはいかがですか。

下地委員： 一点だけ。中ほどの「ビジネスとリゾートが融合するビジネスリゾート地」というところ、これは今の沖縄全体の流れのことで、那覇というところを考えたときには「ビジネスとリゾートが融合する都市として」というふうにしておいたほうが、言葉としてはスムーズにいくかなと思います。

会長： そういうふうに修正を、事務局と調整しましょうね。（委員の了承を確認して）他にございますか？

（他に意見の出ないことを確認し、本件については承認とされた。）

会長： それでは次の、「3 めざすまちの姿【環境・都市基盤】」について。

下地委員： 「沖縄に根ざした」というのをあえて追加したのは何か意図があるのでしょうか？

会長： これは前回議論したところですね。

堤委員： そうですね。

副会長： 「亜熱帯」と言うと（幅広い地域を指すことになるので）外来の色々な植物が入ってくるようになっちゃうんじゃないかと堤委員もおっしゃっていて、「根ざした」というのも、植生の話がでていたのでそれも引っ掛けているのかなと思いますが。

堤委員： 私はこれでいいと思うんですけども、要するに沖縄に元々あるような亜熱帯庭園都市、亜熱帯のいろんな状況を全部再現するんじゃなくて、沖縄に根ざした亜熱帯庭園都市という意味ですよね。

下地委員： 那覇らしい、ということ。

堤委員： そうですね。「根ざした」じゃなくて「らしい」がいいですか？

委員複数： 「らしい」がいいと思います。（同意）

下地委員： 「根ざした」はちょっと言葉の響きが強い感じがします。

副会長： 下の、景観のところにも「那覇らしい」と出てきているので。

会長： では、「沖縄らしい」にしましょうね。ここの「沖縄らしい」というのは亜熱帯の植物相の

イメージですが下の「那覇らしい」はたとえば赤瓦とか、そういう感じのイメージだと思います。

「リノベーション」は「再活用」になったわけですね。よろしいでしょうか。

堤委員： はい、良いと思います。

（他に意見が出ないことを確認し、本件については承認とされた。）

会長： では、「4 重点取組事項」について。「仕次ぎ」のところが、説明が加わりました。また、「つながる『力』」のところに小学校区を拠点というのが入りました。市長の公約が「ひとつながるまち」ですから、「つながる『力』」に変えたのはいいんじゃないかと思います。

堤委員： 分かりやすくなっていますね。これを読めば分かるようになっている。

下地委員： 「仕次ぎ」については（事務局は表現を）だいぶ苦勞されたんじゃないでしょうか。泡盛自体についてというのも入っていますし。良いと思います。

会長： 3つの☆それぞれについてもよろしいでしょうか。

委員一同： はい。（本件については、これをもって承認とされた。）

会長： 「5 基本構想を推進するために」について。「効率的で効果的な行財政運営」に変更されています。よろしいですか？

委員一同： はい。

会長： 他にはほとんど変更はありませんが、よろしいですか？

委員一同： はい。（本件については、これをもって承認とされた。）

会長： 「6 将来人口」について。よろしいですか？

委員一同： はい。（本件については、これをもって承認とされた。）

会長： これをもって、議題1の審議を終了とします。

議題2 第5次那覇市総合計画基本構想答申（案）について

会長： 次に、議題2「第5次那覇市総合計画基本構想答申（案）について」です。基本構想の答申については、第1回の総括部会で、答申書は二本柱、ひとつは「基本構想（諮問案）への意見」、もうひとつは「基本構想（審議会案）」の二本柱で構成するということを確認しております。それでは、事務局から議題2について説明をお願いします。

事務局： （議題資料2「第5次那覇市総合計画「基本構想」について（答申）（案）」を読み上げながら説明する。）

会長： ご意見ございますでしょうか。

堤委員： よろしいでしょうか。「2 各論 （1）まちづくりの将来像について」の4行目、「日本の先端という視点から」の「先端」というのはどういう意味で使っているのでしょうか。「端っこ」という意味？

事務局： はい。端っこという意味です。

堤委員： 「突端」という意味ですね。

もうひとつ、「（2）まちづくりの姿勢について」の「世界が平和であることのメッセージを強く打ち出すべきである」というのは、ちょっと意味が分からないんですけど、「平和であるべきこと」なのか「（現在）平和である」ということなのか。今、平和ではないですよ。とっても乱れている状態ですから、「平和であることの」という表現はちょっと違うのではという気がします。

会長： 「先端」についてからいきましょうか。下地委員、（先ほど何か言いかけていましたが）何かありますか？

下地委員： いえ、その前の議論かなと思ってまして、「1 総論」を3つにするのはいいと思うんですが、やはり市民との協働というのであれば、（3）が一番最初にきて、その次に平和、外国人への視点となるのではないのでしょうか。基本はやはり、住んでいる人が最優先なんですけれど、それに来訪する人も加えて、という意味合いからも、まず市民との協働があって、平和という重要なキーワードがあって、新しい流れというふうに。（3）→（1）→（2）のほうが、流れとしてはスムーズかなというふうに思います。

会長： 「協働によるまちづくり」というのは那覇市の大方針ですから、（3）を一番に持ってきてほしいですね。

下地委員： それから、「2 各論」の部分は、内容は別としてもそれぞれのボリューム感がバラバ

ラなので、そこをどうするかな、というような感じですよ。2行ぐらいのところもあれば6～7行あるところもあったりするので、まずその全体のバランス感をどうするかというところがちょっと気になりました。個別の内容についてはまたのちほどにしたいと思います。

会長： そうですね、これは無理に行数を減らしたり増やしたりする必要はないかと思いますが、出来る限りでバランスのとれた分量にしていきたいと思います。

「先端」はいいですか？ 納得できましたかね。

堤委員： 私が最初に読んだ感じでは、別の意味、つまり「一番進んだ」という意味に捉えてしまったんで、ちょっと違うんじゃないかなと思っていたんですけど。

下地委員： ちょっとこの表現はあまり、必要じゃないような気がします。

会長： 日本とアジアの架け端となる視点が「日本の先端」なのですかね。

委員複数： あえて入れなくてもいいと思います。（複数人からの同意）

会長： これは取りましようね。

委員一同： はい。（一同了承）

会長： それから、「世界が平和であるべきことのメッセージ」と、「べき」を入れましょうか。

下地委員： 今の、「世界が平和であるべきことのメッセージ」というのは、今の那覇市の市政では「平和を希求する心、沖縄の心」というような、「心」というのが時々入っていたかと思うんですけども、ここは、「世界が平和であるべき」というのが。

副会長： 総論の中の、平和行政を打ち出すべきであるというのがあって、基本構想の中で「平和の絆」として平和の視点を復活させたという経緯があるんですよ。それでまたここに、各論に（平和を）書くよりは、他に何か書くべきことがあるのではないかなというような気がするんですけども。

下地委員： 元々「協働の絆」から「共鳴の絆」の5つのところを「まちづくりの姿勢」と言っていたはずなので、おっしゃる様にここに「世界が平和であること」というのがポンと出てくると、まちづくりの姿勢という意味合いにおいては少し違和感がありますね。

副会長： これ（平和）を強調する部分は総論のところ、それだけで十分か、という話が出るかもしれないんですけど、ちょっとこれは違和感がありますよね。

会長： 事務局がこれをここに書き入れたのは、（諮問案には）なかった「平和の絆」というのを全く新しく「まちづくりの姿勢」の中に入れたので、本総括部会の議論を受けてこの項目を入れたということかと思います。これは、総論の中に入っているので省いて良しとしましょう。

委員一同： （一同賛成）

会長： そうすると、「(2) まちづくりの姿勢」については1行半になってしまいますが。ここは、特に性の多様性を入れるべきだというのを入れましょうよ。まちづくりの姿勢のところで性の多様性というのを挿入しましたので、それを那覇市の、レインボー宣言とか、そういうことを入れて。

委員一同： そうですね。（一同賛成）

副委員長： ボリュームが足りないのであれば、「2 まちづくりの姿勢」本文に書かれている「全ての施策の成果がジグソーパズルのようにつながり……絆を築いていく」というところをまとめた文言をここに足したらどうですか。もし、長くしないといけないのであれば。

下地委員、山城委員： 「絆の強化」というのをきちんと入れた方がいいと思います。

副会長： ここで言いたいのはそれですから、絆を強化してつながるというところを、1行半くらいで。

堤委員： （ボリュームが少ないことに関して）諮問案がよくできているから、あまり指摘事項がなかったということで、悪いことではないと思いますけどね。

会長： では、ここは性の多様性の話を入れることと、絆を深めるまちづくりというのを追加したいと思います。他にいかがでしょう。

堤委員： 全く違うところなのですが、「④ヒト・モノ・コトが集い……」について。「ビジネスリゾート」という言葉が出てきているのがどうも前から違和感があって、最初の会議に参加できなかったんでよく分からなかったのですが、「ビジネスリゾート」とはどういうものなのですか？

下地委員： これは、先ほども諮問案のところで沖縄全体の方向性の議論として使っている言葉なので、那覇市については、やはり「都市」という言葉に置き換えたほうが良いと説明をしたので、ここも合わせて変えていかないといけないかと思います。それで、特にこの説明を少し簡略化をしてですね、那覇はリゾートの拠点と同時に物流の拠点であるというのが強く打ち出されることが表現されていればいいのです。

ビジネスリゾートという概念そのものは、沖縄のリゾートというのは自然のリゾートというイメージが強い、まあ確かにそうなのですが、これからのアジアの関係性を考えるときには、MICEに代表されるように、やはり交流拠点という、交流の中身が単に自然とのふれあいとか地元の人とのふれあいとかそういうものだけではなくて、ビジネスを含めた交流というのも沖縄の発展には非常に重要なファクターになってくるところがあって、そういう言葉を使っているんです。最初におっしゃった通り、那覇市に特化した形でこれを使うと違和感が残っているので、この部分は外して。

堤委員： 一般的に言われる自然を楽しむとか歴史を楽しむとかいうリゾートではなくて、もっと人間との交流とか仕事につながるようなものを含めたリゾート、そういう意味ですか。

下地委員： そうですね。そういった概念がこれから必要になってくる、実際に全日空の動きとかも考えると、そういうような流れもあるので。その表現だけを簡単にして短くすればいいと思うのですが。

会長： 具体的に、どこが省けそうですか。

下地委員： 2行目の「そのために……」からの2～3行は（省けるかと思う）。「ビジネス交流の拠点となる可能性が現実味を帯びてきている」という意見が言えていれば良いので、それを説明している「そのために……姿勢が必要である」は外してもかまいません。そして、「さらには」以下のところを、「さらには」ではなくて労働環境の表現にしておくと、ここも非常に大事なところなので、上の方のバランスが強すぎて下がなんか付け足しのようになってしまうので。

会長： 「さらには」以下は別の話ですね。

堤委員： そうですね。ここは給料の話ですね。

会長： 「さらには」以下の3行を別項目として起こすというのはいかがでしょうか。上の方は万国津梁のまちNAHAでまとめて。

下地委員： 諮問案の中に、この労働環境のことも入っているので（場所はここでもいいと思います）。なので、産業が発展しても労働環境がよくなるというのが現状であるので、あえて産業を支える生活者の視点というのを、それが大事になってくる。

会長： 議題資料1の5ページ【産業・観光・情報】のところは、生活者の話はどこに入っていますか。

下地委員： 一番下の行の、「市民一人ひとりの働く力を……労働環境を整え」というところに。（議案資料2の該当部分の）「さらには」のところを「なお」というふうにすればいいかと思います。
「県内の景気は好調である一方、給与所得は依然として低い環境であるため」。

副会長： 那覇市の給与水準そのものについて出してしまうと、何もできないでしょ、ということになりかねないので、「労働環境を整える」くらいでいいかと思います。

下地委員： それでいいと思います。給与だけではなく休暇も含めて、労働環境。

副会長： 給与水準を上げるというのは、県でもなかなかできないことで、国だって困っているわけで、というような批判が出かねないですよ。

下地委員： そういうこともあって、諮問案では「労働環境」となっています。

副会長： 「労働環境」ということであればできることもたくさんあるわけで、「労働環境を整える」というのを活かした方がいいんじゃないでしょうか。

会長： 「さらには」以下の3行を削除して、「働く力をさらに発揮できる労働環境を整える施策を強化する必要がある」というふうに直すということによろしいですか。

委員一同： はい。（一同了承）

下地委員： このあたりは、那覇市の中小企業振興審議会の中でも、やっぱり労働者の地位の改善というのがないと、観光客は増える一方で仕事は忙しくなる一方だけでも、経済が活性化しているというイメージと労働者の生活環境がリンクしていないというのが言われているので。今の「労働環境の改善」というところがあれば、良いと思います。

会長： あといかがでしょうか。

山城委員： 細かいところですが、③の「こども」「子ども」と表記がふたつあります。ここはどうですか。統一したほうがいいかと思うんですが、那覇市はひらがなで使っていますよね。

事務局： 組織としてはひらがなで「こども」ですが、名詞としては「子ども」としています。

会長： では、それで統一しましょう。「子ども」に統一を。他にいかがでしょうか。

（他に意見が出ないのを確認して）よろしいですか。文章の量のアンバランスさについては、これは無理をしないで（出来る範囲で調整）ということによろしいですか。

委員一同： はい。（一同了承）

会長： それでは、具体的な修正は、事務局と部会長に一任をいただきたいと思います。6月1日の全体審議会に、これを総括部会の案として提出することになるわけですね。

委員一同： はい。（一同了承）

会長： 全体会は6月1日ですが、今日の審議を反映して修正したものを、総括部会委員のみなさんにあらかじめ送って点検していただきたいのですが、事務局、対応できますかね？

事務局： はい。6月1日と日が迫っておりますので、出来次第メールで送らせていただいて、またご意見があればいただけたら、会長に報告させていただいて、作り上げていくということになります。

会長： 今日は5月29日ですので、厳しいですが、事前に見てもらえるようにいたします。6月1日の全体審議会への部会報告の進め方について、事務局、もう一度説明をお願いします。

事務局： （報告の仕方を説明する。）

会長： 本日の審議はこの程度となりますが、最後にご発言のある方おられますでしょうか。

（意見が出ないのを確認して）それでは、第3回総括部会はこれで閉めたいと思います。委員の皆様大変お疲れさまでありました。事務局もお疲れさまでありました。では、この後の進行を事務局にお任せしたいと思います。宜しくお願いします。

事務局： はい。仲地会長並びに委員の皆様、本日の第3回総括部会、ご審議ありがとうございました。次回は6月1日（木） 18：00から庁議室にて全体会を開催いたします。今日の審議を受けて、資料が出来次第また皆様にメールでお送りいたしますが、日が迫っておりますので、ギリギリになるかと思われますが、ご了承ください。7月以降の専門部会審議会のスケジュールも現在調整中でして、6月1日の全体会では各委員の皆様にご提示できたらと考えております。本日は、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

一同： お疲れさまでした。ありがとうございました。

以上